



Date: 2005/4/17

Time: 12:30

Place: 名寄市スポーツセンター

主審: 櫻田 孝臣

副審: 石橋 毅

Record person: 伊藤 恭子

- ・ フィジック88 vs 64 名寄短期大学
- ・ 1Q 28-10
- ・ 2Q 23-14
- ・ 3Q 8-19
- ・ 4Q 29-21

#### 第1ピリオド

お互いマンツーマンディフェンスでにて試合開始、相手の様子を伺う。第1ピリオド開始早々フィジックはナンバープレイで攻撃し、内外に攻め短大のファウルを誘う。外角シュートも決まり、更にペースを上げていく。短大は、なかなかペースがつかめなかったが、4分④西永が3Pでの初ゴールから反撃を開始し、5分⑩山田の投入により流れをつかむ。しかしフィジックも速攻により点を重ねフィジック18点のリードで第1ピリオドを終了した。

#### 第2ピリオド

短大は、第2ピリオド開始から、ディフェンスを2-3のゾーンに変更し、フィジックの高さへの対策とリバウンドの強化を図った。しかし、フィジック④須田が、3Pの連続ゴールで追撃を阻む。3分過ぎ、フィジックはディフェンスを、3-2のゾーンディフェンスに変更。しかし直後に短大⑨藤本の3Pが決まる。更に4分フィジックのセンター⑤小松が3ファウルによりベンチに下がったのを機に、ディフェンスリバウンドを取り始め、⑩佐々木の3P等によりフィジックの引き離しをしのいだ。

#### 第3ピリオド

第3ピリオド開始から、フィジックはファウルトラブルにより、ディフェンス・オフェンスの動きが止まってしまう、短大⑨藤川の3P連続ゴール、速攻等で点差を縮められてしまう。また、短大のゾーンディフェンスもうまく機能し、フィジックの得点を8点に抑えた。

#### 第4ピリオド

第4ピリオド開始早々、フィジック⑬山根の3Pから得点開始。⑫佐藤(亜)がゴール下を堅守しポイントを決めていく。続けて⑪神戸の速攻、アシストと短大の追撃をかわしていく。短大は⑥荒矢を中心に得点を重ねるが、フィジックの3-2ゾーンと高さに攻めあぐねる。フィジックは残り3分より1-2-2、1-2-1-1ゾーンプレスを仕掛けるが、うまく機能せず、逆に短大⑧今④西永に3Pを決められるなど、全員が得点に絡んでいききっかけを作ってしまう。しかし、最終的にはフィジック⑧紺野の3P連続ゴールなどで、ディフェンディングチャンピオンとしての力を見せ試合終了となった。

フィジックはシュート力、走力共に短大を上回っており、実力通りの優勝となったが、ディフェンスの面ではいくつかの課題が見えた大会であった。一方短大はコート開き大会初の決勝進出となったが、フィジックの走力と高さにどう対抗していくかが、今後の課題であろう。

